

行動を起こして成長した半年間

私は2年の秋学期から、商学部の箇所間留学プログラムを利用してカナダのブリティッシュ・コロンビア大学(以下UBC)に1ターム留学しました。企業の社会的責任や、ビジネス効率化のためのテクノロジーの導入に関心があり、社会問題に配慮したビジネスの構築についてビジネス×ITの融合に強いUBCを選びました。カナダは移民の多い国で多様な文化に触れることが出来るのも大きな魅力でした。

UBCでは、グループごとに環境に配慮した新規事業を考案し、投資家向けにプレゼンする授業や、特定企業の海外展開戦略を分析・発表する授業など実践型の講義をメインに受講しました。グループワークでは、積極的に自分の意見を主張する姿勢が求められます。日本のように全員の意見を平等に聞くのではなく、積極的に発言しなければ賛成と見なされてしまうからです。最初は戸惑いましたが、事前にしっかりリサーチし準備することで自信を持って自分の意見を伝えられるようになりました。

した。

生活面では、4人のルームメイトとその友人を含めた15人のグループで行動することが多かった。欧米人の中にアジア人が私1人ということもあり、最初は意思表示の方法や生活スタイルの違いから衝突してしまったり、ジョークが理解できなかったりとスムーズにコミュニケーションを取れず苦労することもありました。しかし、価値観が違うから受け入れて貰えないと最初から諦めるのではなく、自分の思っていることを臆せず素直に話すことを心掛けていくうちに徐々に自分の考えも受け入れて貰え、グループに溶け込んでいきました。結果、帰国後も連絡を取り合う友人を作るという学業以外の目標も達成できました。

UBCのキャンパスには、寮をはじめ病院、スーパー、飲食店など生活に必要な施設が揃っておりキャンパスを出なくても生活することができます。植物園やビーチ、スケート場やフィットネスセンターもあり、ビーチからはオーロラ



■ 商学部3年
坂野 なな

を見ることもできました。平日はみんなでアイスホッケー観戦や、スケート、ヨガなどを楽しみ、週末はキャンパスを出てハイキングやサイクリングをしてバンクーバーの豊かな自然を満喫しました。連休にはカナダ国内やアメリカへ旅行にも行きました。

授業内外ともに日本との違いに戸惑うことは多かったですが、「遠慮せずに思っていることを素直に伝える」この一歩の積み重ねが半年後の自分の成長に繋がったと思っています。

授業を通じた学びも多くありますが、日本とは異なる環境で価値観の異なる人と生活を共にする経験は、留学ならではの貴重な機会であり、視野を広げるチャンスです。留学に不安を感じている方もいるかもしれませんが、海外に身を置くことでしか得られない「気づき」や「成長」は沢山あります。ぜひ自分のコンフォートゾーンから一歩踏み出し、新しい環境に挑戦してみてください。皆さんの挑戦を応援しています！

後悔のない学生生活を

私は大学2年生の秋学期から半年間、商学部の箇所間留学プログラムを利用して、台湾の国立政治大学に留学しました。

留学を決意した理由は、「大学生活を後悔のないものにしたい」と強く思ったからです。海外生活に対して漠然とした憧れはあったものの、私はこれまで海外旅行すらほとんど経験がなく、英語や中国語に対する不安は大きくありました。しかし、挑戦しなかったことを後悔したくないという気持ちが勝り、思い切って留学に挑戦することを決めました。

留学を決めてからは、日本にいた時から目的意識を持って行動することを心がけ、準備を進めました。その意識があったおかげで、現地での生活にもスムーズに適応できたのではないかと思います。

国立政治大学での授業は、欧米式のスタイルが取り入れられており、授業中に発言を求められたり、ディスカッションを行ったりする機会が日本の授業に比べて非常に多くありま

した。最初は慣れない形式に戸惑うこともありましたが、「これは自分を成長させるチャンスだ」と前向きに捉え、失敗を重ねながらも、自分に足りない点を振り返り、周囲の学生に意見を聞くなどして少しずつ慣れていきました。「今回はうまくできた」と思える場面が増えていったことは、自信にもつながりました。

学期を通してグループでプロジェクトを制作する授業もありました。英語での議論が複雑になり理解に苦しんだり、メンバーとの日程調整が難しかったり大変なことも多くありましたが、発表を終えたときの達成感は格別でした。制作過程を通じて、授業の内容も自然と理解が深まっていったように感じます。

授業以外の時間でも、できるだけたくさんの経験をしたいと思い、寮で知り合った他国の留学生と夜市に出かけたり、クラブ活動に参加したりして、現地の学生だけでなく、アメリカやヨーロッパなど様々な地域から来た留学生とも交流を深めました。授業や寮内では



■ 商学部3年
大澤 耕平

英語、町中では中国語を使うという環境は負荷が高く、疲れを感じることもありましたが、その分、自分の成長を実感できる場面が多くあり、言語学習がこれまで以上に楽しく感じられるようになりました。

一方で、留学生活は日本の良い点や課題を再発見・再認識する貴重な機会にもなりました。「当たり前」が「当たり前」ではないと気づく経験が多くあったことも、留学を通して得られた大きな学びの一つだったと思います。

留学に挑戦することは、誰にとっても簡単な決断ではありません。不安を感じてためらう人も多くいると思います。ですが、少なくとも私にとって今回の留学は、自己成長の場であると同時に、自分の人生を見つめ直すきっかけにもなりました。

留学に行くかどうかは人それぞれですが、皆さんが後悔のない選択ができることを心から願っています。この留学記が、少しでもその助けになれば幸いです。